



## 森林鉄道から日本一のゆずロードへ —ゆずが香り彩る南国土佐、中芸地域の景観と食文化—



### 平成31年度事業計画

#### ◎はじめに

《高知県中芸地域5町村の、歴史と景観と食文化を紡ぐ物語(日本遺産認定ストーリーの概要)》

『南国土佐の東に位置する中芸地域には、かつて西日本最大の森林鉄道が駆け巡っていた。現在では、林業に代わる産業としてゆず栽培に力を注ぎ、今や日本一の生産量を誇っている。木材を運んだ森林鉄道の軌道は、ゆず畑の風景が広がる「ゆずロード」に生まれ変わった。川沿いや山間に広がるゆず畑を、小さくかわいい白い花、深く鮮やかな緑の葉、熟すとともに濃くなる黄色の果実が季節ごとに彩る景観。ゆず寿司など風味豊かな郷土料理。中芸のゆずロードをめぐれば、ゆずの彩りに満ちた景観と、ゆずの香り豊かな食文化を堪能することができる。』

この認定ストーリー（概要）と中芸5町村の48の構成文化財により、平成29年4月28日、平成29年度日本遺産（51番目）に認定されました。

これを受けて名称を「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会から、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会（以下「協議会」という。）とし、「協議会は、奈半利町、田野町、安田町、北川村及び馬路村（以下「関係町村」という。）が一体となり、中芸地域の文化財等で構成される日本遺産（以下「日本遺産」という。）を整備・活用することで、地域住民にその魅力の再認識を促し、国内外にその魅力を発信して交流人口の拡大を図ることを目的とする。」ことを明記しました。

認定3年目となる平成31年度は、当初策定した『日本遺産を通じた地域活性化計画（平成29年度～平成34年度…6カ年計画』（別添）をベースとして、国の日本遺産魅力発信推進事業（補助期間…平成29年度から3年間、補助率10/10）を中心に、自立可能な協議会組織及び円滑な事業実施体制の構築を図りながら、この日本遺産が中芸5町村のかけがえのない貴重な財産であることを自覚し、その認定ストーリーを具体化、実現化し、国内外にその魅力を発信して交流人口の拡大を図ることで、中芸の新たな地域振興と活性化を推進していきます。

なお、平成30年度から取り組んだ日本版DMOに関する調査・研究と共に、平成32年度以降の自走に向けた調査・研究にも取り組みます。

## ◎国の補助金調書

事業名	年度	当初申請額	交付要望額	決定額又は内示額
日本遺産魅力発信 推進事業	H29	30,500 千円	38,500 千円	38,500 千円
	H30	44,000 千円	20,700 千円	20,000 千円
	H31	47,700 千円	11,000 千円	10,000 千円
計		122,200 千円	70,200 千円	68,000 千円

## ◎平成 31 年度事業計画の概要

協議会の目的を達成するため、次の事業等を実施する。

### (1) 日本遺産魅力発信推進事業に関すること。

事業名等、事業費、(新＝新規事業 継＝継続事業 国＝国補助金 安＝広域補助金 単＝負担金等)、事業の概要

#### 【情報発信】

#### ① 中芸見所スポット100選事業 198千円(新・国198千円)

中芸5町村で100カ所(各町村20カ所)の見所スポットをWG等で選定、ホームページに掲載し、誘客を図る。

#### ② 日本遺産サミット等への参加及びブース出展 985千円(継・国531千円、単454千円)

10月12日～13日に高知市で開催される「日本遺産サミット」、及び10月24日～27日まで大阪府で開催される「ツーリズムEXPOジャパン2019」にブース出店する。特に日本遺産サミットは高知県で開催されるため、中芸地域でもイベントを開催し、そのPRと誘客に勤める。

#### ③ インスタグラム写真コンテスト事業 180千円(新・国30千円、単150千円)

平成30年12月にインスタグラムを解説。2ヶ月に1回コンテストを開催し、審査員は5町村の小学生が行う。小学生に中芸の魅力と、日本遺産に関する認知度の向上を目的とする。

#### ④ 日本遺産協議会公認「一店一品」運動事業 326千円(新・国198千円、単128千円)

商工会等と協同で、現在ある「ゆず商品」、「杉加工品」について協議会が公認し、ホームページで紹介し、「何処に行けば何がある?」を「見える化」することにより中芸地区への誘客と日本遺産の認知度向上を目指す。

#### ⑤ よりみちノート製作事業 1,300千円(新・国1,300千円)

旅好き女子の間でも注目されている旅行用ノートを製作。地図入りのノートを5町村事に製作し、「見所スポット」や「一店一品」とリンクさせ旅の思い出を記録してもらう。中芸地域、県

内、首都圏に設置予定。

⑥ 日本遺産サミット記念イルミネーション事業 3,438千円（新・国3,438千円）

日本遺産サミット（10月12日～13日）開催時期に合わせ、10日間程度午後7時～午後9時に構成文化財である「立岡二号栈橋」をイルミネーションで装飾し、日本遺産サミットに来高した観光客の誘客を図る。

⑦ ゆず FeS 開催事業 3,356千円（継・安1,000千円、単2,356千円）

日本遺産を活かした地域活性化を着実に推進していくために不可欠な地域住民の巻き込みや人材育成を目的に中芸5町村が連携して、小さなイベントを短期間に集中して実施するおんぱく手法を利用した地域活性化を目的とするイベントを本年度も第4回（夏）、第5回（冬）の2回開催する。なお、本年度は安芸広域市町村圏事務組合の補助金を活用し、ガイドブック及びポスターを制作する予定である。

### 【人材育成】

① ガイドの育成事業「安田川線」 100千円（継・国100千円）

平成30年度に実施した「奈半利川線」に引き続き、平成31年度は「安田川線」を平成29年度に作成したガイドマニュアルを活用し、日本遺産や地域の魅力を案内できるガイド育成のため現場研修等を行う。

② CIR・ALT インバウンド研修事業 100千円（新・国100千円）

中芸地域のCIR・ALTを対象にガイド研修を実施し、情報発信を行ってもらうことにより、インバウンド向けの誘客を図る。

### 【普及啓発】

① 中芸の魅力・5町村巡回写真展 413千円（新・国413千円）

平成29年度及び30年度で収集した画像データを元に、火曜日から日曜日までの6日間で5町村を巡る写真展を開催。地域の魅力と他の町村の魅力を知ってもらうと共に、日本遺産認定の認知度向上に努める。

② 中芸で大きやく事業 350千円（新・国350千円）

日本遺産サミット期間中に、富裕層をターゲットに古民家等で中芸のお客文化を体験してもらう。協議会において、ホームページで「皿鉢」や「地酒」の紹介を行い、各商店に顧客が注文する「完全予約制」で実施。中芸の食文化と、日本遺産の認知度向上及び観光客の誘致を図る。

③ 湖面に消えた森林鉄道！伝説のロックダムコンサートをみんなで語る事業

117千円（新・国117千円）

今から30年前に中芸の若者が協力して魚梁瀬ダムにて加藤登紀子のコンサートを行った。その時の映像の上映会を大心会館で開催し、当時のコンサートスタッフのパネルディスカッションを行う。30年前の中芸の若者の情熱や思いを感じ、次世代の若手プレイヤーの育成へと繋いで行く。

④ 中芸日本遺産学事業 400千円（継・国400千円）

中芸高校・山田養護学校田野分校の総合学習として日本遺産について学び・発展の場とする。歴史や構成文化財について、日本遺産についてこれまで取組んできた住民などが生徒に伝え、そこから高校生の発想により自由な取組を行う。

⑤ エコミュージアム講演会 230千円（継・国230千円）

「地域全てがミュージアム」という考えで、全国的な先進地である山形県朝日町から安藤竜二氏を招き「朝日町のエコミュージアムの取り組みについて」と題し、講演会を開催する。

### 【調査研究】

① 研究者と地域住民の協働による日本遺産のサブストーリーの作成・公開事業

990千円（継・国990千円）

訪問者の共感を呼び、中芸地域への愛着を深めるには、日本遺産を支えてきた人々のサブストーリーが重要である。研究者と地域住民が互いに地域を見つめ直し、「人」に焦点を当てた人々の営みを生き活きと描いた「サブストーリー」を作成し、可視化して体験につなげる。作成したサブストーリーは、日本遺産ホームページ等で公開するほか、日本遺産ガイドとして活躍してもらうことが期待される。

② 森林鉄道復活計画書作成事業 200千円（新・国60千円、単140千円）

平成30年度に実施した「森林鉄道復活調査」の調査結果を報告書として作成。

### (2) その他協議会の目的達成のために必要なこと。

事業名等、事業費、（新＝新規事業 継＝継続事業 国＝国補助金 安＝広域補助金 単＝負担金等）、事業の概要

① 各種研修事業 633千円（継・単633千円）

文化庁が開催する「日本遺産塾」等各種研修会に参加する。研修内容については、担当者会等で報告し情報の共有を図る。

② 第26回全国ハーブサミット in 淡路島 455千円（新・国355千円、単100千円）

全国ハーブサミット連絡協議会が主催するハーブサミットを視察する。平成32年度に中芸地域で

のハーブサミットを計画しており、「ゆず」や「スギ」などの香について全国発信するためのノウハウ取得を目的とする。

・ハーブとは…一般的に料理の香り付けや保存料、薬、香料、防虫などに利用されたり香りに鎮静・興奮などの作用がある有用植物を指すことが多い。

③ 各種イベントブース出展事業 400千円（継・国400千円）

ゴールデンウィーク期間中に田野駅屋に設置する臨時観光案内所を初め、中芸地域で開催される各種イベント等にブースを設置し、日本遺産のPRを行い、認知度の向上を図る。

④ 協議会組織運営費 29,828千円（継・国1,844千円、単27,984千円）

協議会組織及び事務局の運営・活動経費等を計上。

### （3）継続的な調査・研究等

① 中芸日本遺産センター（仮称）について

総合的な情報発信の拠点施設の整備について、長期的な戦略プラン策定においても重要なことから引き続き継続的な調査・研究を行う。

② 協議会組織について

日本版DMOやDMCなど、国の補助金が終了する平成32年度以降の協議会のあり方について、日本遺産を地域と共に総合的に情報発信と誘客による「自立した団体」と移行することについて継続的な調査・研究を行う。

なお、平成31年度の事務局体制は、昨年度同様なはりちょう、安田町、北川村及び馬路村の職員が中芸広域体育館において事務を執行する「駐在方式」とし、構成5町村には、「商工・観光」、「文化財」担当者を日本遺産担当者として配置し、担当者会への出席等により情報共有と、協同により日本遺産の事業推進と、認知度向上に努める。

③ 収益事業について

自走に向けての収益事業について継続的な調査・研究を行う。

（現在考えられる収益事業）

- ・日本遺産レシピの使用料（一般社団法人日本遺産情報センター）
- ・日本遺産記念切手販売
- ・日本遺産検定（日本遺産連盟）など

(別添)

**日本遺産を通じた地域活性化計画**  
(平成 29 年度～平成 34 年度…6 力年)  
(概要)

**(1) 日本遺産のタイトル**

森林鉄道から日本一のゆずロードへーゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化ー

**(2) 将来像 (ビジョン)**

日本遺産のストーリーが描き出す地域固有の景観や文化を、地域住民が地域のかげがえのない資産として共有することを出発点として、地場産業振興と交流人口拡大を実現。そこから生まれる活力によって地域文化の継承と地域づくりを担う人材を育成し、中芸地域が直面する人口減と高齢化から生じるさまざまな課題を自力で解決できる強い地域コミュニティをつくることで、長期的・継続的な地域活性化の達成を目指す。

**(3) 地域活性化のための取組の概要**

①日本遺産を中核とした地域ブランドを確立し、国内外に向けて地域の魅力を発信する。

(目的：地場産業振興・交流人口拡大・地域文化継承・人材／コミュニティ育成)

②中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会（以下、「協議会」という。）を中核とし、民間事業者、まちづくりグループ、行政及び大学による協働体制を構築し、産・官・学連携により地域づくりを行う。

(目的：人材／コミュニティ育成)

③日本遺産のストーリーに描かれた文化的な景観、文化財、生活文化の調査研究・整理を進め、地域住民による中芸地域の歴史・文化の価値に対する理解の向上を図る。

(目的：地域文化継承・人材／コミュニティ育成)

④日本遺産のストーリーに描かれた文化的な景観、文化財、生活文化の整備を進め、中芸地域の魅力を創出し、それらを活かした観光振興を行う。

(目的：交流人口拡大)

⑤ストーリーに描かれた素材を核として広域的に連携し、モノや人の交流を活性化させる。

(目的：地場産業振興・交流人口拡大)

⑥訪日外国人に地域の魅力を伝え、来訪時に快適に楽しめる環境を整備する。

(目的：交流人口拡大)

**(4) 自立的・継続的な取組**

①整備する拠点施設の利用を有料とし、さらに新たに開発した土産物等の売上を、拠点施設の維持・管理費用に充てることを検討する。

②協議会を中心とした活動を継続していくために、地場製品の売上から一定額が寄付される仕組み、あるいはICカード型前払い電子マネーとの提携、さらに平成30年度からはふるさと納税に日本遺産への取組の項目を設ける、もしくはガバメントクラウドファンディング方式で資金調達を行うことを検討する。

◇ガバメント（政府又は地方公共団体）クラウドファンディングとは、ふるさとチョイスがふるさと納税制度を活用して行うクラウドファンディング（※）です。自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄附金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄附を募る仕組みです。

（※）クラウドファンディング（CF）とは、不特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことを指す造語です。

## （5）実施体制

- 名称 中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
- 構成団体 奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、高知県農業協同組合、馬路村農業協同組合、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会、北川村観光協会、馬路村観光協会、なはり浦の会、田野まちづくり塾・衆、中山を元気にする会、四国森林管理局、高知県旅館ホテル生活衛生同業組合東部支部、一般社団法人高知県東部観光協議会
- 高知大学特任講師 赤池慎吾氏を協議会プロデューサーとして迎え、協議会の意見を調整しながら、事業の運営管理を行う。
- 協議会内に、部会を設置し、事業の進捗等を管理。

## （6）地域活性化計画における目標と期待される効果

- ・設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化
- ・設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
- ・設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立

### ◎期待される効果

日本遺産活用の取組により、ゆずを始めとする地場製品の付加価値が上がり、売上増とともに、海外への販路拡大も進む。あわせて、交流人口の拡大によって観光産業が確立され、移住者も増える。

それらがもたらす経済的な恩恵と刺激が、地域住民の地域への愛着が深まる動機付けとなり、その中から地域の歴史・文化を継承し、地域コミュニティの将来を担う人材が育つ。